

# 健康と光線

## 人類の悪弊

骨粗鬆症と診断される患者が激増し、薬も頻繁に処方されるようになりましたが、これまでのところ実際に効果を上げることができず、治療には、カルシウム、活性型ビタミンD、カルシトニン、女性ホルモン（エストロゲン）、ビタミンK、蛋白同化ホルモンなどが使われています。しかし医師の殆どは決定打になる薬がないにも拘らず、患者の協力が要る日光浴や運動を処方に加えることはありません。つまり患者は寝ていても、薬だけで骨粗鬆症は治る、と思い込ませようとしています。このように何事も薬で解決しようとするのは人類だけの悪弊ですが、秦の始皇帝が不老長寿の霊薬を求めた話を引き合いに出すまでもなく、自然の定めを無視して薬効を盲信する呪縛から逃れられないのでしょうか。

## 低い薬効への不満

骨粗鬆症の治療の目的は、骨密度の上昇と疼痛の緩和にあります。平たく言えば、骨を丈夫にすれば痛みも薬になる、と言うことですが、薬を年単位で使っても、薬効がはっきりしないことが指摘されています。国別の使用薬剤もさまざまですが、アメリカはエストロゲンが90%、イタリアはカルシトニンが90%、フランスはカルシウムが90%を占めているそうです。わが国では活性型ビタミンD、カルシトニン、エストロゲン、カルシウムなどが雑多に使われています。なお今年から厚生省の骨粗鬆症に関する調査研究班で、骨の中にあるガンマーカルボキシグルタミン酸というカルシウムと結合する能力のあるアミノ酸を含んだ蛋白の合成を促進するビタミンKの効果が試されることになりました。

われ方が国により医師によりまちまちだったり、改めて新薬の研究が行われるのは、これまでに用いられた薬の効果が低く不満があるためです。これらの薬のうち、カルシウム、活性型ビタミンD、女性ホルモン（エストロゲン）については既に本紙に記載しましたので、今回はカルシトニンについて考察します。

## 骨粗鬆症治療のコツ

— 確認されない治療薬の薬効 —

サナモア光線協会  
サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

カルシトニンは甲状腺から分泌されるホルモンですが、淡水から海水のようにカルシウムが過剰な環境に移動する魚類で活性が高いことが知られています。その作用は、骨からカルシウムが溶け出る（骨吸収という骨粗鬆症の原因になる）のを促す破骨

このカルシトニンに特異的な骨吸収抑制作用に大きな期待を寄せ、カルシトニン製剤は骨粗鬆症の夢の治療薬になると期待され開発されました（欧米ではサケの、日本ではサケとウナギのカルシトニンが製品化されている）。しかしこれまでの試験では薬効には懐疑的な意見も少なくありませんが、評価は将来に待つとしても、薬効

は必要がないため殆ど退化しています。ちなみにパラソルモンの必要がない魚類では副甲状腺そのものがあります。

ニンに拮抗する、すなわち骨吸収やカルシウムの吸収を促し排泄を抑えて体液中のカルシウムを補う、副甲状腺ホルモンのパラソルモンの活性が高く、カルシトニンは必要がないため殆ど退化しています。

細胞の活性を特異的に抑制し、腸でのカルシウムの吸収を抑え、腎からの排泄を促して、体液中のカルシウム濃度を下げ、過剰なカルシウムの害から身を守る、と考えられています。そのため常にカルシウム不足にさらされている人や陸上動物では、カルシトニンに拮抗する、すなわち骨吸収やカルシウムの吸収を促し排泄を抑えて体液中のカルシウムを補う、副甲状腺ホルモンのパラソルモンの活性が高く、カルシトニンは必要がないため殆ど退化しています。

## 骨粗鬆症の治療は

生活習慣を正すことから

これまで骨粗鬆症は食品のカルシウム、日光浴、運動の三位一体で治療してこそ最善の効果が得られることを再三強調してきました。これでは医師は失業すると心配したのかも知れませんが、医師は患者の自助努力に基づく協力なしに薬だけで骨粗鬆症を治す立場に固執し過ぎていたように思われます。その上、これまでのところ薬で骨密度を増やす薬効は確認されていません。これはカルシウムを吸収し利用する機序が、自然が定めたルールに基づく微妙なバランスの上に成り立っていて、このルールを逸脱して骨粗鬆症を治そうとしても無理があるからです。したがって骨粗鬆症の治療は一義的には生活態度を正すことから始めるべきで、薬物療法は二義的な意義しかないことを認識すべきです。（関連記事を五、六面に記載しました）

発行所  
〒153 東京都目黒区目黒 4-6-18

サナモア光線協会

年4回発行  
会費年500円  
電話 東京 (03)  
3793-5281  
3712-5322



露 天 将 棋

宇都宮義真撮影



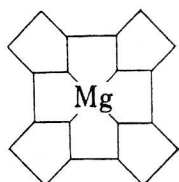
## 葉緑素の効用

満目の葉という葉が日光を受けて緑色の色合いを強めるのは、細胞の葉緑体の中の葉緑素(クロロフィル)が増えるからである。葉緑素の基本的な構造は、今世紀になって、ドイツの化学者リチャード・ウィルシュテッター博士により明らかにされた。すなわち炭素、水素、酸素、窒素の元素からなる五角のピロール環が四つ集まってリングをなし(このような構造の物質をポルフィリン色素という)、中心にマグネシウム(Mg)を持ち、ピロール環の一つにフィトールと呼ぶ長い側鎖がある。博士はこの功績によりノーベル賞を受賞したが、葉緑素が無機物の二酸化炭素(炭酸ガス)と水とから、日光の助けを借りて、すべての生物の栄養源になる有機物の炭水化物を合成する光合成(炭酸同化作用ともいう)を行う機転については、その後の研究に負うところが大きい。なお

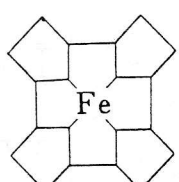
光合成は自然界で無機物から有機物を合成する唯一のルートで、動植物の蛋白質、脂肪、核酸、ビタミン、ヘモグロビンなどすべての物質の原料を生成するが、この一連の神秘的な作用がすべての生命を支える原動力になるのである。

## ヘモグロビンと葉緑素

葉緑素がポルフィリン色素を持つことは述べたが、吾人の血液の赤血球の中のヘモグロビン(色素)もポルフィリン色素



ヘモグロビン



フィリン色素を持つ。両者の構造式を模式的に図示したがよく似ている。違いはヘモグロビンは中心にマグネシウムでなく鉄(Fe)を含むため、色は赤く(血液の色は血色素の色である)、物質

の合成には関与せず、呼吸に関わるガス交換、すなわち肺で空気中の酸素と結合して炭酸ガスを放出し(肺呼吸)、組織で細胞に酸素を与えて炭酸ガスを奪う(組織呼吸)ことで分解作用に関与している。

## 光線で血を増やせ

宇都宮 義真

### 血液を増やす

吾人が日光に浴して顔色が良くなるのは、葉緑素が増えるのと同じでヘモグロビンが増え貧血が改善するためであるが、赤血球のヘモグロビンだけでなく、白血球や血小板も含めて造血機

能全般の活性を高める働きが証明されている。

ところで葉緑素とヘモグロビンの構造は甚だ酷似しており、葉緑素はマグネシウムを、ヘモグロビンは鉄を含むのなら、葉緑素を食べるとマグネシウムのところに鉄が入りヘモグロビンになる、ということも考えられている。しかし残念ながら、葉緑素がそのままヘモグロビンに転換する可能性については否定的な見解が大勢のようである。確かなことは、日光を浴びると葉緑素もヘモグロビンも増えることである。降り注ぐ日光の下、葉緑素は光合成に励んでいる。吾人も光線を浴びて新鮮な血液を増やし、健康を増進し、病気を征服しなければならない。サナモアを照射すれば、簡単にその実際の作用を経験することを得るであろう。

### 「光と熱」

昭和13年7月1日発行

「光線で血を増やせ」  
を引用した。

## 「はじめに」

めまいのため日常生活動作（ADLという）が不自由な一例に光線治療を行い、著効を認めたので報告する。

## 【症例】

患者 78歳 女性

## フラフラして歩けない

## — 病名不祥のめまいの治療経験 —

横浜市 渡辺光線治療所 渡辺 貴士

主訴 めまい

既往歴 高血圧で加療中。三年前に脳卒中に罹患、右半身麻痺、めまい、耳鳴りがあったが、約半年で改善し現在麻痺はない。

現病歴 平成7年10月中旬、夜中にトイレに行こうとした時、頭の中がひっかきまわされているみたいなグラグラするめまいを起し、動揺感があったが周囲が回転する回転感覚はなく、意識も明瞭だった。血圧が上がったのかと思ひ手元にあった降圧剤を服用したが全然

治まらないため、翌朝、家族に支えられて病院を受診した。

病院で測った血圧は180/90 mmHgで然程高くなかったが、降圧剤の注射を受け様子を見ることにした。しかしめまいが治まらなかつたため、医師が「何かのショックでなつたのだろうか、一週間も入院すれば良くなるよ」と言うので入院することにした。

入院はしたものの十日経ってもめまいは軽減せず、横になつてじつと静かにしていれば何でもないが、少しでも寝返りをうとうとするとベットが逆立ちするようない感じがし不安感にさいなまされた。その頃より掛け布団をものすごく重く感じるようになり毛布だけにして貰ったが、夜中になると下半身だけビシッ

リと寝汗をかいた。この寝汗がなくなるのと同時に、頭の中で渦を巻いている様な感じが憑き物が落ちたようになつた。その頃から耳鳴りを自覚するようになったが、めまいはいくらでも軽くなり起き上がれる様になつたため、杖をついて病院内を歩く練習を始めた。しかし人にチョット触れただけでも

フラフラして倒れてしまうのでとても怖くて以前のようには歩けなかつたが、入院を続ける理由がないとして入院四週間退院させられた。

退院して一週間程して、一眠りしてトイレに行こうと起き上がると、頭の中でドクドクと脈うつ感じが出てきたため、医師にそのことを告げると、精神安定剤を処方された。しかし何の効果もなく、むしろ薬を飲むようになってから歩く際のふらつきが増し、両肘から指先にかけて痛みが増す感じがしたので、薬の服用を止め再度医師に相談したところ、整形にかかりなさいと言われた。しかし整形を受診する気にならず、平成8年1月始めに光線治療を希望して来所された。

来所時、フラフラして歩行がままならず、両肘から指先へかけて痛み、耳鳴りがあり、右の首が歩行練習中に転倒した際の打撲で可成り腫れていた。

治療経過 治療はA B、B Dのカーボンを組合せ、頭頂部、両肩、腹部、腰、膝、膝裏、足首、足裏、右首などへ各10分ずつ、同時に二台の光線治療器で二灯

照射した。

光線治療を始めて一週間程で、それまで手放せなかつた杖なしで歩けるようになり、右首の腫れもとれたが、両肩に痛みが出た。四週目に頭の中でドクドクと脈うつ感じが消え、五週目には両肩の痛みも楽になつたが、左肩の部分だけ照射し始めると凄く痛がり、痛みが増すのに連れて右の脳の部位から口にかけて引きつられるような感じがあり、身体がドンドン傾く感じがするが、10分位照射して痛みが軽くなると共に傾斜感も消える」と訴えていた。この状態が二ヶ月続いていたが、光線を照射しても左肩の痛みが出なくなると共に動揺感、傾斜感もなくなり、階段の昇り降りも大変楽になつた。五ヶ月目に耳鳴りがスーと消え、それまでは治療を終えて起こしてあげないとベットで起き上がれなかつたのが自分で起き上がれるようになり、帰り道も楽に歩いて帰れるようになった。

なお治療中にたいした痛みではなかつたが、膝に痛みが出たり、足のつま先に痛みが出たり、あちこちに移動する痛みがあつ

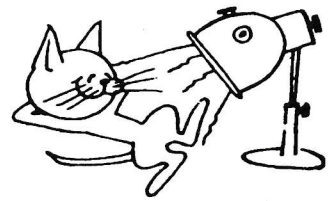
た。また治療の余録みたいなことだが、右の耳の下に十五、六個、左の耳の下に七、八個あった老人性疣贅（イボ）がドンドン枯れたようになって消え去った。現在、めまいは完全に消失しており、再発の兆候も認めない。

## 【結語】

誰しも症状があれば、病院に對し相応の病名と治療を期待するが、常に適切な病名があつて適切な治療法があるとは限らない。殊に報告例のように、症状はあつても検査で症状を裏付けられない異常が見つからないと、まともな病人として扱って貰えない傾向がある。これも病院の医療が診断に基づいて行われていることから仕方がないのかも知れないが、症状より検査に偏り過ぎる医療の実情を示している。

これに對しサナモア光線治療は、故・宇都宮義真先生が常に言われていたように、病人が潜在的に持っている治療力を高めることを基本理念としており、病名がつかなければ治療できないというものでなく、実際に効果を期待できるのである。

横浜市港北区篠原北一十一十七  
TEL 〇四五 四〇一 一〇二四



## — 治 験 例 報 告 —

### ☆視力の低下

症例1 49歳 男性 中学校教諭

#### 論

症状 視力が右0.9、左0.5と不均衡だったが、メガネの必要は感じなかった。しかし震災から数ヶ月経った頃から、普通に見えていた文字が見づらくなり、左目で見ると縦の線がだぶって見え、Xの二乗と三乗を見間違えるようなミスが度重なったため、メガネを新調した。そんな折りに親に頼まれてカーボンを購入するため来所されたが、メガネをかけても目が疲れるが光線療法は効くか、と相談してきた。

療法経過 ADカーボンで集光器を使い目10分、後頭部20分、ABカーボンで、背、腹、腰、足裏に各10分照射するように話した。

した。

それから二ヶ月して来所したがメガネをかけていない。聞くところ、光線を始めて数回で目の疲れがなくなり、暗かった左目の視界が明るくなり、一ヶ月で右目の視力が戻り、左目がかすむのも気にならなくなったのでメガネと縁のない生活に戻った、という。それでも目は疲れず、頭も軽く、光線の効果に驚いたと喜びを顔に表して語っていた。

症例2 52歳 女性 主婦

症状 最近雑誌や新聞の文字がかすんできた。以前、蓄膿症の治療で一ヶ月ほど顔に光線をかけ、症状は良くなったが、顔が黒くなった経験があるため、目に直接照射しないで視力回復に役立つ方法はないかと電話で相談してきた。

療法経過 基本照射と後頭部に

### ☆尋常性乾癬

症例 43歳 男性

症状 両側膝関節伸屈側(前面)にふけ状のもの(鱗屑という)がふいた様な乾燥した痒いやや隆起した発疹があり、医師に尋常性乾癬と診断されたが、処方された軟膏を塗っても良くなりず、却って発疹は段々と広がる状態だった。なお医師から動物

ADカーボンで20分照射して様子を見るように話した。  
三週間して電話があり、ルーパーを使って見ていた新聞のテレビ欄がルーペなしにパッチリ見えると大喜びで、電話の声も弾んでいた。

### ☆胃癌

症例 85歳 男性

症状 五年前前から、食前に寒気がしたり、腹部不快感や吐き気があったり、生唾が口に溢れるように出たりするのに気付いていたが、最近になって急に食欲がなくなり、心配した奥さんから電話で光線療法をさせたいと相談を受けた。多分胃腸の動きが弱っているのではと考え、

性脂肪の摂り過ぎで悪化すると注意を受けたので、なるべく肉食は摂らないようにしている。

療法経過 BCカーボンで、全開で両側膝関節伸屈側に30分照射してから、一号集光器を使って片側30分ずつ照射した。また脂肪代謝を改善するため、BDカーボンで、足裏、腰、背、腹に各20分30分ずつ照射し

### サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA、B、C、Dカーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」ともども受用者各位の御信頼を頂き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことは、皆様方よくご存知の通りであります。

ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセッとしたり、サナモアA B C Dと効果が同じという根拠もないうたい文句で互換表を添付して販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる行為をする者が何時の世にもいますが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任はもてませんので、ご注意下さい。

(サナモアカーボンには、製造元イビデン株式会社の商標「B」のマークが必ずついています)

東京光線療法研究所

BDカーボンで一号集光器を使い胃部(上腹部)に30分、開放で腹部の後方から10分、足裏15分照射するように指示したが、同時に念のため病院を受診するように勧めた。その結果、病院で胃癌と診断(患者は告知されていない)されたが、高齢のため手術は見合わせることにになり、光線療法は当院で続けることにした。

この治療を毎日続けた結果、十日間位で発疹は全快と言えるほど改善したが、本症には再発の問題があるので、これからも慎重に経過観察をすることにして

した。なお患者は煙草も酒も好きとのことである。

療法経過 カーボンはAD又はBDを使い、二台の治療器で、胃部60分、足裏30分、胃部後方から10分、膝10分、次いで仰臥位で左右肩10分、左右腹10分、左右膝10分照射した。

当院で三ヶ月間治療してから自宅治療にし、その後は月に一回の通院で経過を追っているが、今は食事の回数を増やして栄養を補い、苦しむことなく元気に過ごしている。なお病院には定期的に受診しているが、医師は癌病果はむしろ縮小しているの

春日市 育美健康光線療法研  
山崎 いく子氏報告  
TEL09二一五八一二〇三九

川崎市 東京光線治療院  
海渡 一二三氏報告  
TEL0四四一七二二一五〇六七

## 骨はカルシウムの備蓄庫

生命はカルシウムに富む海で、カルシウムに囲まれ、カルシウムに依存して誕生しました。ちなみに生命を育んだカルシウムの含有量について、

## 自然と共生して生きる その1

## — カルシウムパラドックスの警告 —

サナモア光線協会 医学博士 宇都宮 光明

の正常値と海水中の濃度を比較しますと、前者は100cc中に10mgですが、後者は100cc中に40〜50mgもあります。このようにカルシウムに恵まれた環境で誕生した生命が、カルシウムを海水の十分の一から百分の一しか含まない河川やカルシウムを食物から摂るしかない陸地で生息するには、カルシウムを備蓄する手立てを必要としたのです。

一方、六億年前に上陸を果たした陸上植物は、熱帯雨林のごとき食料と酸素を供給する巨大な生産工場になり、五億年前に

は地上の生命を保護するオゾン層も完成して、酸素呼吸をする動物が上陸しても生息できる環境が整ってきました。しかし海と比べると、はるかにカルシウムに恵まれない環境に適應して生きるには、カルシウムを体内に備蓄する組織、すなわち骨を持つ動物に進化したのを待たなければならなかったのです。そこに出現したのが脊索動物です。脊索とは脊椎動物の個体発生初期にのみ認める組織で、そこから脊椎骨が生じます。この脊索を持つ最古の海の生物はピカイアと呼ばれていますが、個体発生は進化の道筋を示す系統発生を再現する(ヘッケルの発生反復説)とすれば、ピカイアこそ三千万種にも及ぶといわれる骨を持つ陸上動物の先祖と考えられます。

カルシウムの作用を支える  
カルシウム分布の恒常性

動物が骨を造ってまでカルシウムにこだわったのは、カルシウムが生体のあらゆる機能に不可欠だからです。例示すれば、カルシウムはすべての情報伝達のメッセンジャーとして作用しますが、この作用をどこおこなうか行うには、日々のカルシウムの出納、言い換えれば吸収量(摂取量ではない)と排泄量のバランスが維持され、その結果と

して体内のカルシウム分布の濃度比が所定の範囲内に保たなければなりません。すなわちカルシウムの出納に過不足がなければ、細胞内の液性分画のカルシウム濃度は血液(細胞外液)の一万分の一、骨の約一億分の一の濃度で分布します。これをカルシウム分布の恒常性といいますが、情報はこの状態が保たれていると生命体の基本単位である細胞(成人には60兆個の細胞がある)まで正確に伝えられるのです。

つまるところ刺激に応じて筋細胞が素早く収縮するのも、ホルモンがきちんと標的器官で作用するのも、「刺激」と「反応」を仲介する「結合システム」(カップリングシステムあるいは二次メッセンジャーという)があるからです。この結合システムの主役がカルシウムで、情報はカルシウムが細胞膜のカルシウムチャンネルと呼ばれる通路を通して細胞内に入り、細胞内のカルシウム濃度を上昇させることによって伝えられます。したがって細胞膜の内外に前述した一万倍の濃度差が保たれていないと情報は混乱し、細胞は本来の機能を果たせなくなります。

なお情報が伝達されると細胞内のカルシウム濃度が上昇し濃度差が失われますが、細胞膜にはカルシウムを汲み出すカルシウムポンプと呼ばれる機能があ

り、これを駆使して濃度差を回復し、次の刺激に反応する準備をします。この細胞膜の内外の濃度差を保つ物質の移動には、カルシウム(電解質)のようにエネルギーを使い選択性を持つ能動輸送と水の分子のように濃度差だけで移動する(これを半透性という)受動輸送との共同作業で行われています。

## カルシウムパラドックス

とはどんなこと

殆どの栄養素は食事で多く摂れば多く吸収されるため、気を付けるのはダイエット、というように可笑しいことが流行っていますが、食べ過ぎは肥満体になり見栄えが悪いだけでなく、諸病の原因と脅かされれば、飽食の時代では当然のことなのでしょう。そのためカルシウムも多量に摂れば過剰に吸収されてカルシウム過剰症を起こし、カルシウム分布の恒常性を失う、と考える人(医師も含めて)がいたとしても不思議ではないのかも知れませんが、しかしカルシウムは摂取量が増えれば増えるほど吸収率が低下し、過剰に吸収されることはありませんので、むしろ多めに摂る(600mg以上)ようにしてください。

カルシウムを摂り過ぎて過剰にならないのは、ビタミンDのホルモン様作用で標的器官の

上部小腸の上皮細胞で形成されるビタミンD依存性カルシウム結合蛋白と結合した分が吸収される、つまりビタミンDがカルシウムの吸収に関わることによってカルシウムを過剰に吸収して中毒になるのを防ぐ機構がある、からです。それでは、どのような場合にカルシウム分布の恒常性が失われるのでしょうか。

これまでに明らかにされたことを要約しますと、カルシウムの摂取量が足りないか、カルシウムD欠乏症のためカルシウムが吸収されないか、いずれにせよカルシウムの吸収量が足りない、血中のカルシウム濃度の低下を防ぐため、カルシウム調節ホルモンのうち骨を溶かして備蓄したカルシウムを血中に補給する作用があるパラソルモン(副甲状腺ホルモン)の活性が高まり、骨から必要量を超えた過剰なカルシウムを放出します。しかしこの際、血中のカルシウム濃度が上がり過ぎると、脳障害のような重篤な事態を招来することになりますので、過剰なカルシウムは血管や筋肉や脳など軟部組織の結合組織や、あるいはパラソルモンの作用でカルシウムチャンネルを無理やり開いて細胞内に送り込み、カルシウムの血中濃度を正常範囲に保ちます。その結果、カルシウム

## (五ページからつづく)

分布の恒常性を失い、情報伝達には混乱してさまざまな病的状態を起し、レントゲン写真に写る組織の石灰沈着の原因にもなるのです。

要するにカルシウムが足りないと骨からカルシウムが溶け出て骨粗鬆症を起こすことまでは、足りないとなくなる話です。単純に理解できますが、カルシウム濃度が極めて低く保たなければならぬ軟部組織のカルシウム濃度が逆に高くなるという逆転現象が分かりにくい。戸惑われるのです。しかしパラソルモンが介在することで、実際に骨と血液、血液と軟部組織(特に細胞の液性分画)の間のカルシウム分布の濃度勾配が縮小し恒常性を失う、この一見辻褄が合わない現象をカルシウムパラドックス(パラドックスとは常識的に矛盾していると思われる見解に真実があること)というのです。

ここでカルシウム摂取量について付け加えますと、一部の例外的な病人(危篤状態の病人やカルシウム調節ホルモンに異常を来す疾患など)を除けば、血中カルシウム濃度は骨に備蓄したカルシウムを利用して常に一定の値を保ちますので、摂取量の過不足を血液検査で知ることには出来ません。しかし平均的な食事をしてる人なら、牛乳

(1cc当たり1mgのカルシウムを含む)をコップで一、二杯も飲めば必要量は補えると考えて差し支えありません。無論、それ以上に摂り過ぎても他の電解質(ミネラル)のように

吸収量は増えませんが、便秘になるくらいで弊害はありません。むしろ問題にしたいのは、カルシウムを摂りさえすれば骨の粗鬆化を防ぎ、カルシウムパラドックスを起こさないと思ひ込んでる人の多いことです。前述したようにビタミンD欠乏症があるとカルシウムは吸収されませんので、カルシウムだけで事足りるとすればカルシウムパラドックスを起こし、骨にす(鬆)が入り、さまざまな病気を起こします。したがって特にビタミンDが欠乏し易い高齢者が真の健康を望むなら、必ず光線を浴びなければなりません。

## 自然が発した警告

生命は太陽と地球を母として生まれ、環境の変化に順応して進化しました。そのすべての生命の中で最後に現れたのが私たち人類です。人類は地球45億年の歴史から見れば、高々350万年位前にアフリカ東部のグレートリフトバレー(大地溝帯)で誕生した新参者に過ぎませんが、文明を造り、際限のない人口の増加を招き、何十億年もかけて

造られた自然を破壊しています。しかもこれからも人知ですべてを解決しようとして、自然を守り自然と共生する術をおざりにしています。

無論、自然と共生すると言っても、食うか食われるかの狩猟採集の世界に逆戻りできない位は百も承知していますが、せめて利便性を多少犠牲にしても、自然の摂理を尊び、自然の摂理に則った暮らしに戻る努力をして損はありません。身近な例で説明すれば、家の中で大事に飼われている犬や猫は筆筒から飛び下りただけで骨折するのに、碌なものも食べられない野良犬や野良猫が追われて塀から飛び下りて骨折した話は聞いたことがありません。これは飼い主にどんなに高価なものを食べさせて貰ってもビタミンDだけは補えないため、飼い犬や飼い猫は無理矢理カルシウムパラドックスにさせられて骨粗鬆症になっているのに、光線を浴び自然のまま生きている野良犬や野良猫ではカルシウム分布の恒常性がちゃんと保たれていることを示しています。これが人知の遠く及ばない自然の素晴らしい点であり、カルシウムパラドックスは自然が人類に対して発した警告として受け止めるべきではないでしょうか。

(次号に病氣とカルシウムパラドックスとの関連性を記述します。)



サナモア光線協会

趣意書

天地創造の昔から、真の光、即ち太陽光線は、私たちに限らない恩恵を与えています。サナモア光線療法は、この太陽光線の健康増進、疾病予防および治療効果を利用した治療法です。従つて、目に見える可視光線だけでなく、目には見えないが無くてはならない紫外線や赤外線を目的にの応じて適切に放射しなければなりません。

このサナモア愛用者を以て、光線療法の研究を行うと共に、啓蒙普及活動を行うためサナモア光線協会を設立しました。サナモア光線協会は、設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し、季刊紙「健康と光線」を発行します。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

協会では、会員を募集しております。入会希望者は、左記宛御申込み下さい。

〒153 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会 TEL (03) 三七九三—五二八一  
(三七一—五三三三)

(本紙の無断転用を禁止します。)